

第三章

施策評価結果を踏まえた今後の活用方針等

1 施策評価結果を踏まえた今後の活用方針等

平成 29 年 8 月 29 日に開催された、第 2 回行政評価委員会全体会では、これまでに開催された各分科会での評価結果の概要報告と、施策全般にわたる横断的な議論等が行われ、行政評価委員会としての施策に対する最終的な評価が確定した。

今回の施策評価はちよだみらいプロジェクト策定後の各施策の進捗状況を測り、現状と課題を把握し、今後の施策の実効性を高めることを目的として実施したものである。

結果としては、多くの施策が「概ね進捗しているものの一部課題や懸案事項がある」と評価されている。

そのなかで、施策ごとに掲げる「主な取組み」や「今後の方針」については、大局的・客観的な視点から施策の最適化・効率化に資する意見が得られた。

それぞれの事業所管では、毎年度、決算時に事務事業評価を行い、主要事業の予算等へ反映させ、PDCAサイクルに取り組んでいる。さらに、今回の評価結果における新たな視点を施策に付加することにより、めざすべき 10 年後の姿の実現を一層進めていく。なお、評価のなかでは幅広い意見や課題も示されているため、予算措置の有無にかかわらず、執行体制などの改善を図る際にも有効に活用することで区政に還元する。

また、指標については、現在設定されている指標のみでは、施策の進捗状況を測る上で不十分であるとの指摘を数多く受けた。

一方、進捗状況を評価するための指標のあり方を踏まえた提案も得られたため、指摘を受けた施策は次回の施策評価までに、ちよだみらいプロジェクトに示す指標とは別に内部管理に用いる「補助的な指標」の設定を行い、進捗管理を徹底し、その状況を明確にすることで、施策の一層の進捗を促す。

さらに社会情勢の変化などにより、新たに発生している課題や施策体系のあり方などに対する課題について指摘を受けた部分は、長期的な課題として検証を進め、平成 32 年度に予定しているちよだみらいプロジェクトの見直しの際に活用していく。

区では今後、評価結果が施策へどのように反映されたのか、各事業部での状況を把握するため、調査などの実施によって反映結果を確認し、次回の施策評価では評価制度の手法も見直していく。

また、行政評価制度を通じて、施策や事務事業の不断の見直しを行うことで客観的な意見や指摘等を的確に反映し、めざすべき 10 年後の姿の実現に向けて、効果的・効率的な行政運営を推進していく。